第４学年　学級活動（災害安全）　　　　　　　　　　　　　　　場所：４年１組教室

地震後を生きぬくために

指導者　　松尾　健太

**１　目標**

　・震災時の危険や困難における知識を獲得し、そのための備え（非常持ち出し袋）について考える。

**２　新学習指導要領との関連【学級活動】内容（2）－ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成**

現在及び生涯にわたって心身の健康を維持することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

**３　単元について**

　　本学級の児童は、緊急地震速報が鳴ったときに素早く行動するなど、避難訓練や安全指導に対して真面目に取り組むことができる。しかし、家庭で地震後の避難場所や連絡方法が決まっていないと答える児童が、３７人中１８人いるなど、家庭を含め地震に対しての危機意識はまだまだ低いと言える。また、非常持ち出し袋を知らないという児童もおり、家に非常持ち出し袋があるかどうかを聞くと、大半の児童が、｢ない｣｢分からない｣と答えた。このような地震関連のことに対する知識の不十分さが、危機意識の低さの一因であると捉えた。そこで本単元では、避難所としての学校の役割を知り、非常持ち出し袋の役割や、その中身を考える。そうすることで、地震に備える上で必要な情報や、恐ろしさについて知り、地震に対する意識を高めることにつながると考える。

**４　主題に迫るための手だて**

　・映像や写真を使い、地震後の危険や困難について具体的に意識させる。

　・非常持ち出し袋の必要性について考えることで、地震への備えの大切さを感じさせる。

**５　指導計画　（２時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ☆ねらい　○学習活動 | ◎安全教育の視点に立った留意点　■評価 |
| １ | ☆地震の恐ろしさ、震災時の学校の役割、備蓄倉庫の中身、非常持ち出し袋の中身について知る。○地震や津波の映像から、その恐ろしさについて知る。○非常持ち出し袋の役割について知り、実際に非常持ち出し袋の中身を確かめる。○学校の備蓄倉庫を見学し、そこにあるものとその使い方を知る。○次時のめあてを知る。 | ◎震災に関する映像から地震の恐ろしさを感じさせ、防災の大切さを再認識させる。◎非常持ち出し袋についてのアンケート結果を示し、地震への備えが不十分だという課題意識をもたせる。◎学校の避難所としての働きや、備蓄倉庫に非常時の生活に役立つ物があることを知らせる。■非常持ち出し袋や備蓄倉庫の役割について知り、その中身や保管されている物が、非常時に役立つことを理解している。◎次時に、この備蓄倉庫の中身を踏まえながら、震災後72時間を生き残るために、自分の非常持ち出し袋にどのような物を入れたらよいか考える意欲をもたせる。 |
| ２(本時) | ☆非常持ち出し袋の必要性を理解し、非常持ち出し袋の中身を考えることができる。○様々な道具が何のために必要なのか（地震後の危険、困難）について考える。○自分の家庭に適した非常持ち出し袋の中身を考える。 | ◎実物や写真で具体的にイメージできるようにする。■その道具の必要性から、地震後に起こる危険や困難を予測している。■非常持ち出し袋の中身を、自分なりの理由をもって考えている。 |

**６　本時の展開 （２／２）**

**（１）ねらい**

　　・非常持ち出し袋の必要性を理解し、非常持ち出し袋の中身を考えることができる。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◎安全教育の視点に立った留意点■評価（評価方法） |
| ○前時で学習した実際に非常持ち出し袋に入っていた物や、以前アンケートで自分が非常持ち出し袋に入れたいと考えた物を発表する。　地震後を生きぬくために自分の非常持ち出し袋の中身を考えよう。○これらの道具が何のために必要なのか（地震後の危険、困難）について考える。　・レインコート、替えの下着、保温シート、カイロ　　→気候・雨・防寒対策　・携帯ラジオ、携帯電話の充電器・乾電池　　→情報収集　・靴、ヘルメット、手袋、懐中電灯　　→避難所までの安全な移動　・救急セット、携帯トイレ、マスク、ウエットティッシュ　　→応急手当・衛生管理　・眼鏡、補聴器、杖、薬、赤ちゃん用品　　→個人的に重要な物　・水、チョコレート、ビスケット　　→水・非常食　・現金、貴重品、免許証、保険証のコピー　　→その他○非常持ち出し袋の中身を選ぶ上での視点（前時に習った非常持ち出し袋の役割）を思い出す。○自分の非常持ち出し袋の中身を考え、発表する。・生き延びるためには、水や食料が必要。・雨や雪も考えられるからレインコートは大切だ。・衛生面を考えるとマスクや携帯トイレが必要だ。・眼鏡がないと見えないから、替えの眼鏡を入れておこう。　○本時の学習感想や、今後自分がすべきことを考える。 | ◎アンケートの結果を示し、地震への備えが不十分だという課題意識をもたせる。◎実物や写真を用意し、具体的にイメージしやすいようにしておく。◎雨天時や夜間の気温、実際に配給される食糧、避難所に行くまでの危険、避難所の様子を、写真や数値、映像などを使って具体的に提示できるようにしておく。■必要とする道具から、地震後に起こる危険や困難を予測している。（発言）◎非常持ち出し袋の役割（人間が生きる限界が72時間。助ける側としては、この時間はとにかく救助に充てたい。助かった人はとにかく72時間、支援体制が整うまで自分の力で生き延びてほしい。その手助けとなるのが非常持ち出し袋。）をしっかり押さえる。◎代用できる物、安全に持ち運べる量、救助が来るまでの時間等について気付かせる。◎大きい物、小さい物を色分けし、大きい物は重さを記入し、量的に考えることができるようにしておく。■非常持ち出し袋の中身を、自分なりの理由をもって考えている。（ワークシート・発言） |